

2050年からの メッセージ

村治 佳織

自然が与えてくれたギターの音色。
かけがえのない音と響きを、純粋に伝えていきたい。

皆さんは、ギター音楽というとどんな曲を思い浮かべますか？ ジャズやフォークやフラメンコ……音楽にとっても広がりのあるのがギターという楽器のよさだと思います。

そのなかで、私が小さなころから親しんできたのが、クラシックギターです。ただ、残念ながら、クラシックの作曲家たちがギターのために書いた楽曲というのは、ピアノやヴァイオリンのように多くありません。だからこそ、ジャズやポップスといったほかのジャンルにもトライできる面白さがあります。これまでも、さまざまな作曲家の魅力的な作品を、ギターの音色で表現してきました。

ギターに向かうとき、私がいつも大切にしているのは、作曲した人の思い。楽譜に残されたテンポや強弱、曲想を頭に入れて、楽曲をどう解釈するかに多くの時間をさきます。作曲家の人生を調べ、イメージを膨らませながら、素晴らしい音楽をどうしたらそのまま、シンプルな形で伝えられるだろうか。ギターという楽器を通し、作曲者の思いをどのように伝えられるだろうか、という感じでしょうか。

2050年というと、私は70歳くらい。やはりギターは弾き続けていきたいですね。クラシックの演奏家は、40～50代になって、やっと脂がのってきたと言われたりするような世界。だからでしょうか、歌舞伎やワインといった、時間をかけて生まれ、時代が変わっても色褪せることのないもの。そんなものに、とても

愛着を感じます。自分の音楽も何十年か後、どこかの街の誰かに、あ、いいなと思ってもらえたらすてきですね。

そのためにも、地球の自然環境が大切になってきます。よい環境がなければ、音楽もきっと楽しめないことでしょう。いま、この素晴らしいギターの音色を楽しめるのも、豊かな自然が育んだ樹木があり、森があったから。アコースティックギターは、木を使って、人の手で時間をかけてつくり上げたものです。自然が与えてくれた音だから、いつまでも、私は弾き続けることができるのだと思います。小さな木の箱とそこに張られた弦だけで多彩な音色を表現するアコースティックギターの音楽は、弾くほうはもちろん、聴くほうにも集中を要します。耳を澄まさなければならぬのです。

いまの時代、じっと静かに耳を傾けることはあまりないでしょう。でも、人間の耳というのはとても繊細にできていて、耳を澄ませてみるとちゃんと聞こえてくるんですよ、いままで聞こえなかったいろいろな音が。音楽に限らず、そういう感覚を忘れないことが大事なのではないかと思うのです。

音楽には、国も時代も超える力があります。未来に向けて、これからも、ギター独特の繊細な音と響きにさまざまな気持ちと思いを込めて、世界中の人々に伝えていければと願っています。 (談)

むらじ・かおり

ギタリスト。3歳より父・村治昇の影響でギターを始める。1989年ジュニア・ギター・コンクール最優秀賞。92年2つの国際コンクールに優勝、93年デビュー・アルバムをリリース。2003年英国デッカ・レーベルと専属契約。スペイン・マドリッドにも生活拠点をもっている。「ギターで聴きたい名曲たち」というコンセプトのもとに、幅広いジャンルから選曲されたCD『ポートレイツ』が好評だ。



©Kiyotaka Saito

CONTENTS

03 2050年からのメッセージ 村治 佳織

04 FOR THE NEXT GENERATION
特集／ぼくらの好奇心が未来をつくる!

12 江戸のテクノロジー 其の七 水道

14 社会科見学の時間です 射出成形機

18 MHIワールドプロジェクト 南アフリカ共和国

20 News & Topics

23 地球と地域とMHI